

第8回あきる野市環境基本計画市民検討委員会

日 時 令和7年10月3日（金）14:15～16:15
場 所 武蔵五日市駅前拠点施設「フレア五日市」
出席者 奥委員長、森副委員長、戸辺委員、鈴木委員、石川委員、柏倉委員
才勝委員、小山委員、平野委員、田中委員、橋本委員、安永委員、
栗原委員、石塚委員
欠席者 青山委員
事務局 環境政策課 山本課長
環境政策係 黒澤係長、阿部主任
環境の森推進係 岸係長
受託事業者 (株)オリエンタルコンサルタンツ（3人）
資 料 第8回あきる野市環境基本計画市民検討委員会 次第
資料1 第三次あきる野市環境基本計画（素案）
資料2 アクションプラン（案）
資料3 今後の計画策定までのスケジュールについて
参考資料 表紙・裏表紙（案）

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

（1）第三次あきる野市環境基本計画（素案）について（資料1・2）

●事務局（環境政策課長）

これより、奥委員長に進行をお願いする。

●委員長

議題（1）について、事務局より説明をお願いする。

●事務局（受託事業者）

(資料説明)

●副委員長

11ページの各地域の代表的な生きものについて、記載のもの以外に、上養沢地域ではヤマネ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、オオルリ、戸倉・小宮地域ではモモンガ、オシドリ、コキクガシラコウモリ、ヤマドリ、ニホンザル、深沢地域ではアカハライモリ、イノシシ、アナグマ、ゲンジボタル、五日市・増戸地域ではミゾゴイ、ヤマトセンブリ、モリアオガエル、秋川丘陵地域ではトウキョウダルマガエル、カワラバッタ、イタチ、カルガモ、アオサギ、秋留台地域ではキツネ、キリギリス、キジ、ヒバリも挙げられる。掲載する種の数そろえていただきたい。

●委員長

事務局は、生物多様性あきる野戦略に記載の生きもの他に、副委員長に挙げていただいた生きものについても、追記いただきたい。

●副委員長

4ページの計画の位置付け図について、あきる野市生物多様性保全条例を個別計画(分野別計画)に含めて良いのではないかと。あきる野市生物多様性保全条例は、第三次あきる野市環境基本計画から個別計画(分野別計画)に伸びている矢印の下部に記載の「施策の方向性など」に含まれる。

●事務局(受託事業者)

あきる野市生物多様性保全条例と個別計画(分野別計画)を同じ枠で囲み、「生物多様性の保全の仕組み」の記載と矢印を削除する。

●委員長

22ページの温室効果ガス削減目標の考え方及び23ページの再生可能エネルギー導入量の図に、数値を追記いただきたい。

●事務局(受託事業者)

温室効果ガス削減目標の考え方について、2013年度、2022年度、2030年度の排出量を数値で追記する。再生可能エネルギー導入量についても数値を追記する。

●委員

自然環境分野施策の柱1の指標の「実施した生物調査の報告件数」について、3件とあり、少ないと感じた。報告件数は、何の件数であるかの説明が必要である。他の指標についても、指標の内容について説明が必要なものがあり、第4章の各表に注釈を付けると煩雑であるため、資料編にまとめて掲載するのが良いと考える。

施策の柱2の指標の「重点的に保全対象とした種の選定数」の目標値が1件となっているが、あきる野市版レッドリストで多くの生きものが挙げられている中で、1件としたのはなぜか。また、1件とはどのような生きものを想定しているか。

施策の柱3の指標の「市内におけるみどり率」について、目標値を82.0%とした理由を教えてください。

●事務局（環境政策係長）

「実施した生物調査の報告件数」について、自然環境調査部会、森林レンジャーあきる野、ゼフィルスの3団体から年度ごとに各1回報告をもらっているため、報告回数としては3件になる。指標を、報告件数ではなく調査回数に修正する。調査回数の現状値は491回である。

「保全区域の指定数」は、網代の田んぼを候補としており、「重点的に保全対象とした種の選定数」を1件としているのは、網代に生息しているタイコウチ、ヤマトセンブリ、キキョウ、ニホンアカガエルを候補としている。候補種は複数あるが、これまでに保全区域や保全対象とする種の指定を行ったことがなく、これに要する作業量が不明確なため1件としている。

「市内におけるみどり率」の目標値について、これまでに市内のみどり率を把握しておらず今後の予測が難しいことに加え、宅地開発が進められている状況も踏まえ、微増の82.0%として設定した。

●委員

市内のみどりのほとんどが森林であり、市街地のみどりの増減の影響は小さいと予想される。そのため、「市内におけるみどり率」の目標値は「現状維持」

という記載でも良いと思う。

●委員長

指標の意味及び目標値の設定根拠について、資料編などへ記載が必要である。例えば、気候変動対策分野の施策の柱4の「グリーンカーテンの実施率」について、分母が何であるのかが分からない。

●事務局（受託事業者）

資料編に指標項目の考え方や把握方法を一覧で掲載する。

●副委員長

8ページの（1）自然環境の保全の「緑のネットワーク」を「みどりのネットワーク」に修正いただきたい。「このような」という記載を削除することで、行数が増えずに対応できる。また、事務局には、東京都が公表するみどりの新戦略ガイドラインを一読いただきたい。

自然環境分野施策の柱3の目指す姿について、「生態系ネットワーク」から「みどりのネットワーク」に変更したのはなぜか。

●事務局（受託事業者）

現行計画では、「生態系ネットワーク」としているが、東京都に準じて「みどりのネットワーク」に統一をした。

●副委員長

生物多様性あきる野戦略では、ネットワークとなっている生態系という意味で「生態系ネットワーク」という言葉を用いているが、「みどりのネットワーク」の方が適していると考えます。

生物多様性あきる野戦略では、みどりのネットワークを市街地の生物多様性の主としている。また、みどりの新戦略ガイドラインにおいても、代官山の目黒川沿いの崖線を例として、みどりがネットワークされた市街地の必要性を示している。あきる野市は、崖線が多くあり、これらの重要性を計画にも反映いただきたい。

●委員長

個々の拠点管理するのではなく、それらを繋げるネットワークの視点での

記載が必要であるという意図のご意見である。

●事務局（受託事業者）

29ページの文章に「生物多様性の保全において、生きものの生息・生育場所
が、適切に配置され、有機的につながったネットワークの形成が重要です」と記
載しており、目指す姿に「みどりのネットワークの形成が図られている」、さら
に、紐づく施策として施策方針2（2）に「みどりのネットワーク形成の検討を
進めます」、アクションプランに「崖線緑地の保全及び充実の検討」と記載をし
ている。

●副委員長

施策ではネットワークという記載があるが、取組内容では住宅や農地、崖線緑
地などそれぞれの場所における管理や緑化の推進という内容になってしまっ
ている。

●委員長

取組内容は各課の個々の取組であるため現状のような記載になっており、そ
れらが施策にある「ネットワーク形成」に繋がっているかについては、計画推進
の際に留意する必要がある。

●委員

自然環境分野施策の柱2 施策方針3に対応する指標がない。アクションプラ
ンに記載の取組内容を基に、農地面積や有機認証などを指標に追加してはどうか。

施策の柱3 施策方針1に対応する指標が、市民参加型活動に関するものとな
っている。市民参加に関わるものは人の活動分野に位置付け、行政主体の取組に
関する指標を設定する必要があるのではないか。

施策の柱2の指標の「外来生物の駆除数」について、外来生物が減ることで駆
除数も減るため、駆除数の増加を目標とすることに違和感がある。

●事務局（受託事業者）

施策の柱2 施策方針3の指標について、気候変動分野施策の柱4の「森林整備
（主伐・間伐）面積」や、人の活動分野施策の柱1の「新規就農者数（累計）」

などが関連する指標である。指標再掲について、検討する。

「里地・里山における市民参加型活動の回数」と「箇所数」について、把握しておきたい項目であるため、どの施策の柱に紐づけるかについては改めて検討する。

●副委員長

自然環境分野施策の柱3の指標の「平井川の調査で確認された水生生物の種数」について、確認種数は調査前の降雨などによって変化する。また、調査では、どれくらいの大きさのどのような種が生息しているかを調査しており、種数が多ければ良いというわけではないため、目標値の設定は適切ではないと考える。目標値を、現状維持に変更いただきたい。

●事務局（環境政策係長）

「平井川の調査で確認された水生生物の種数」は近年の調査結果において、確認数が22から24であったため、目標値を24種としていた。目標値は、現状維持に修正する。

「外来生物の駆除件数」について、ご指摘のとおり外来生物が減り、駆除件数も少なることが最終的な目標であるが、現状を踏まえると駆除件数の減少が良いことではないため、指標として扱いが難しいと感じている。

●委員長

複数の施策にまたがる指標について、本編で再掲するのではなく、資料編の一覧で関係を示していただきたい。

●副委員長

保存緑地を指標として設定した方が良いのではないか。

●事務局（環境政策係長）

保存緑地数の増加は見込まれず、目標値は現状維持となるが、指標に位置付ける。

●委員

51ページの自然環境分野の重点プロジェクトのイラストについて、アライグマのイラストがタヌキに見えるため、修正いただきたい。

- 委員長

生活環境・資源循環分野の施策の柱1の指標の「環境基準の達成率（大気、水質など）」について、環境基準は、達成されることが望ましいものであるため、目標値は100%としていただきたい。

- 委員

表紙について、写真に映っている人がきれないようにデザインの線を減らしていただきたい。

- 委員

コラムの目次に、本編中のコラムのタイトルや枠などで囲うような記載とし、読みやすい印象のデザインに変更いただきたい。

(2) 今後の計画策定までのスケジュールについて（資料3）

- 委員長

議題（2）について、事務局より簡単に説明をお願いします。

- 事務局（環境政策係長）

（資料説明）

- 委員

5年後の計画見直しの際には、市民検討委員会に議員や、計画の評価を行っている環境委員会の委員にも入っていただきたい。

また、計画策定にあたって実施した市民ワークショップのように、市民参加の機会を今後も設けていただきたい。

- 事務局（環境政策課長）

本計画の策定にあたって環境委員会の委員長と調整を行い、計画の推進や進捗状況の点検等を行う環境委員会の委員が、計画策定を行うのは望ましくないという結論となったことから、本市民検討委員会には参加していない経緯がある。

- 委員長

議事は以上である。

4 その他

- 事務局（環境政策課長）

本日のご意見を踏まえて修正を行い、メールで皆さまへ配信を行う。素案の最終確定については、委員長一任とさせていただく。

5 閉会（副委員長）